

平成 30 年度 県立高等学校における長期欠席（不登校）の状況等

1 概要（表 1・表 2・表 4・表 5 参照）

- 平成 30 年度の県立高等学校における長期欠席生徒数は 1,160 人で、全日制は 678 人、定時制は 482 人。理由別では「病気」が 196 人、「経済的理由」45 人、「不登校」が 670 人、「その他」が 249 人。
- 不登校生徒数は、平成 29 年度と比較して 132 人増加（前年度比 24.5%増）。
（全日制 430 人（前年度比 87 人増）、定時制 240 人（前年度比 45 人増））

（表 1）理由別長期欠席者の状況

		在籍者数(人)	理由別長期欠席者数				計(人)	不登校生徒の割合(%)
			病気(人)	経済的理由(人)	不登校(人)	その他(人)		
H29	全日制	36,524	186	1	343	59	589	0.94
	定時制	1,729	46	99	195	327	667	11.28
	合計	38,253	232	100	538	386	1,256	1.41
H30	全日制	36,079	169	1	430	78	678	1.19
	定時制	1,693	27	44	240	171	482	14.18
	合計	37,772	196	45	670	249	1,160	1.77

- 単位制を除く全日制における不登校生徒数のうち、学年別では 2 年生の 134 人が最多（出現率 1.48%）。定時制においては、不登校生徒のうち、不登校の状態が前年度から継続している生徒の構成比は 68.8%。

2 不登校の要因と考えられる状況（複数回答：表 3 参照）

- 分類別生徒数は、全定ともに『無気力』の傾向がある」（全日制 142 人、定時制 100 人）が最多で、そのうち最も多い区分は、全日制は「学業不振」（37 人）、定時制は「家庭に係る状況」（28 人）。
- 次に多い分類別生徒数は、全定ともに『不安』の傾向がある」（全日制 96 人、定時制 54 人）で、そのうち最も多い区分は、全日制は「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（29 人）、定時制は「家庭に係る状況」（12 人）。

3 不登校生徒のうち、不登校の状態が前年度から継続している生徒数その割合（表 5 参照）

- 不登校の状態が前年度から継続している生徒数は、292 人（全日制 127 人、定時制 165 人）。
- 不登校の状態が前年度から継続している生徒の割合は、43.6%（全日制 29.5%、定時制 68.8%）。
- 全日制においては、学年別でみると「3 年生」（48.4%）が最多。

4 専門的な相談・指導を受けた学校内外の機関等（表 6-1・表 6-2 参照）

- 学校内、学校外で担任以外の専門的な相談・指導を受けている生徒の実人数は、全日制 319 人、定時制 70 人。
- 学校内においては、「スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた」（全日制 138 人、定時制 28 人）が最多。
- 学校外においては、「病院、診療所」（全日制 110 人、定時制 27 人）が最多。

5 不登校生徒のうち、中途退学・原級留置になった生徒数（表 7 参照）

- 不登校生徒のうち、中途退学した生徒数は、全日制 78 人、定時制 22 人で、計 100 人（不登校生徒数に占める割合：14.9%）。
- 不登校生徒のうち、原級留置した生徒数は、全日制 35 人、定時制 35 人で、計 70 人（不登校生徒数に占める割合：10.4%）。